

ボーイスカウト部門・ベンチャースカウト部門 進級課目・技能章の変更についての説明

第3章 団

教育規程 番号	変更内容	改正後の課目	変更の理由
入隊 3-73	変更	<p>————— ベンチャースカウト —————</p> <p>対象年齢の青年は、随時、ベンチャー隊に入隊して加盟登録することができる。</p> <p>② 対象年齢の青年は、入隊に際し、入隊条件を満たした後に、ボーイスカウト経験のある者は「ちかい」を再認して、ボーイスカウト経験のない者は「ちかい」をたてて、アドベンチャーバッジを着用し、ベンチャースカウトとなる。</p> <p>③ 入隊の時期は、各団において定める</p> <p>入隊条件</p> <p>1 基本</p> <p>(1) 隊会議または隊集会に参加し、ベンチャー活動を理解する。</p> <p>2 スカウト精神</p> <p>(1) 「ちかい」と「おきて」について隊長と話し合う。</p> <p>(2) 自分の将来像について考え、隊長と話し合う。</p> <p>3 スカウト技能</p> <p>(1) ボーイスカウト未経験者は、ボーイスカウト初級章課目1基本及び3スカウト技能を履修する。</p>	<p>進級の切り離しに伴い、入隊条件を追加</p> <p>入隊条件</p> <p>1 基本：ボーイスカウト隊の活動とベンチャースカウト隊の活動・関わり方の違いを理解する。</p> <p>2 スカウト精神：ベンチャースカウトとしてちかいをたてる/再認する前に確認する</p> <p>3 スカウト技能：未経験者は最低限必要なスキルを身に付ける</p>

第7章 教育の方法 ボーイスカウト部門

教育規程 番号	変更内容	改正後の課目	変更の理由
ボーイスカウトの 進級課程 7-25	削除①	(5) 菊スカウトの少年の履修課目 隼の課目	ボーイスカウト部門の進級が菊スカウトまでになることにより、ベンチャースカウト部門の進級課目に取り組むことがなくなる。
初級 7-54	削除②	(5) 普段の集会で必要なもの(訓練用具)を知り、携行する。	集会ごとに必要なものを考えるべきと判断し削除。
	追加①	(2) 住んでいる地域の避難場所を説明できる。	自然災害の急増を受け、災害への取組みについての課題を進級章のレベルに応じて新しく設けた。
2級 7-55	変更	(3) 隊または班の安全係を3か月以上担当する。	安全係は活動において必ず必要な係であり、班員の人数減少および欠席者による流動的な班活動の実態を踏まえ、期間を削除した。今後は隊の現状に合わせて、安全係を常に配置できるようにハンドブック等で示していく。

教育規程 番号	変更内容	改正後の課目	変更の理由
	削除④	③ 三角点、水準点、標高点、等高線とは何かを知り、三角点または水準点の標石を発見する。	スカウト技能については、とくに必要なものを精査し進級課目に残し、年齢的に取組みが難しいものや、より専門性の高いものなどは技能章で取り組むようにした。
	削除⑤	⑤ コンパスを用い、バックベアリングができる。	同上
	削除⑥	① 次の野外料理を作る。 ア) 複数人数分の米飯および味噌汁 イ) 複数人数分の野菜、肉、魚、卵を材料とした2種類以上の料理	本課目は、刃物や火の取扱いといった、2級章を取得してから取り組む内容であると判断し、野外炊事章に集約した。
	削除⑦	① 食用植物、有害植物をそれぞれ2種以上見分ける。	スカウト技能については、とくに必要なものを精査し進級課目に残し、年齢的に取組みが難しいものや、より専門性の高いものなどは技能章で取り組むようにした。
	削除⑧	③ はかりや計量器を使わずに、1合の米、1Lの水を15%以内の誤差で量る。	同上
	削除⑨	② 追跡記号を10種以上覚える。	同上
	追加②	(12) 自宅および活動場所から近隣の避難場所を探し、ルートを示すこと。	自然災害の急増を受け、災害への取組みについての課題を進級章のレベルに応じて新しく設けた。
1級 7-56	削除⑩	③ マッチに防水加工を施し、携帯用の防水容器に入れて提出する。	スカウト技能については、とくに必要なものを精査し進級課目に残し、年齢的に取組みが難しいものや、より専門性の高いものなどは技能章で取り組むようにした。
	変更	(4) 次に示すキャンプ経験について、いずれかの条件を満たしている。 ① ボーイスカウト隊に上進してから、連続5泊以上の、隊キャンプか自団の班・隊で参加できる地区、県連盟、日本連盟のキャンプ大会に参加している。 ② 2級スカウト章を取得してから、通算6泊以上のキャンプ経験を有している。	長期野営実施の教育効果は高いが、実施困難な隊が多く隊指導者の負担になっていることも否めないため、進級にあたっての選択肢を増やした。
	削除⑫	① 日中、夜間においてコンパスを用いずに2種類の方法で方位を発見する。	スカウト技能については、とくに必要なものを精査し進級課目に残し、年齢的に取組みが難しいものや、より専門性の高いものなどは技能章で取り組むようにした。
	削除⑬	② 300m以上の距離に追跡記号を設置し班員を誘導する。	同上
	削除⑭	③ クロスベアリングの手法を用い、地形図上で現在地を発見する。	同上

教育規程 番号	変更内容	改正後の課目	変更の理由
	削除⑮	① 次のロープ結びの使いみちを理解し、実際に使う。 ア) 垣根結び イ) よろい結び ウ) バタフライノット エ) 馬つなぎ オ) からみ止め カ) バックスプライス キ) 角しばり ク) はさみしばり ケ) 筋かいしばり	バタフライノットは、よろい結びと用途が同様のため項目を削除した。
	削除⑯	① 樹木5種類以上をスケッチまたは写真で記録し、特徴を述べる。	スカウト技能については、とくに必要なものを精査し進級課目に残し、年齢的に取組みが難しいものや、より専門性の高いものなどは技能章で取り組むようにした。
	削除⑰	② 北極星の発見方法を知り、北極星を発見できる。また、5つの星座を発見できる。	同上
	削除⑱	③ 身近にいる動物（ほ乳類・鳥類・魚類など）について観察し、報告する。	同上
	削除⑲	① 自作の簡易測量器具を用いて、樹木などの高さを誤差10%以内で測る。	同上
	削除⑳	② 簡易測量法を用い、到達できない2点間の距離（長さ、高さ）を誤差10%以内で測る。	同上
	削除㉑	(7) 技能章から、「ハイキング章」「スカウトソング章」を取得する。	選択課目である技能章を指定することをできる限り避けた。スカウトがプログラム活動を通して自発的に取り組めるようにした。
	追加③	(10) 技能章から「読図章」を含む3個取得する。	以前進級細目となっていた項目を読図章として整理、その他の技能章についてはスカウトが自発的に取り組めるよう指定をしないこととした。
	削除㉒	(2) 自分の住んでいる地域にある3つ以上の施設へ案内ができる。	新設技能章「読図章」の課目に移動し、1級章課目の奉仕について新しいものを追加した。
	追加④	(2) 地域や学校等の環境保全活動や避難訓練に参加する。	環境保護や自然災害の急増等の社会の課題を受け、進級章のレベルに応じて新しく設けた。
菊 7-57	変更	1級スカウト章を取得してから班長、次長、隊付、上級班長として隊運営に6ヶ月以上携わる。	B S隊に規定されている役務名称とした。
	削除㉓	(4) 外国のスカウトの「おきて」を調べる。できれば外国スカウトや指導者に直接教えてもらう。	実施困難な隊が多い現状を踏まえ削除した。
	削除㉔	(1) 5分間泳ぐか 1,500mを走り、自己記録を更新できるように努力する。	1級章で課目の記録更新を課目とするのではなく、1級章取得時からどのように向上に向けて努力しているかを隊長と話し合う課目に変更した。
	追加⑤	(1) 自身の体力向上のために日頃から取り組んでいるものについて、隊長と話し合う。	

教育規程 番号	変更内容	改正後の課目	変更の理由
	削除⑤ 追加⑥	(1) 技能章から「野営章」「野外炊事章」「リーダーシップ章」を取得する。 (1) 技能章から「野営章」「野外炊事章」を含む合計6個取得する。	野営章、野外炊事章を必須とし、その他の技能章についてはスカウトの興味関心に基づき選択できるように変更した。 合計6個は1級章で取得した3個との合算とする。 1級章で3個、菊スカウト章で3個。
	追加⑦	(2) 地球環境問題について1つ取り上げ、自分には何ができるかを説明する。	世界的な共通課題である地球環境問題を進級課目に新たに追加した。
	削除⑥ 追加⑧	<del>(2) 班長や次長（グリーンバー）として班キャンプ、またはジュニアリーダーとして隊キャンプの計画を立て1泊以上の固定キャンプを実施し隊長に報告書を提出する。</del> (3) 班キャンプの計画を立てて1泊以上の固定キャンプを実施し、隊長に報告書を提出する。	ボーイスカウト部門のキャンプの最終形として、責任をもって班キャンプを実施できる能力に重点をおいた。そもそも、現行の隊キャンプの計画から実施は進級課目として現実的ではなく、指導者の介入も多い。そのこともあり、班キャンプ計画から実施と、よりスカウトが主体となって取り組む課目に変更した。
	追加⑨	(4) 自分の住む地域のハザードマップを入手し、他のスカウトや指導者にそこに記載されていることから何がわかり、どのような備えが必要かについて説明する。	自然災害の急増を受け、災害への取組みについての課題を進級章のレベルに応じて新しく設けた。
技能章課目 7-63-1	変更	1. 野営章 (1) 入団以来通算6泊以上のキャンプに参加していること。	野営章を高校生からボーイスカウト活動を始めるスカウトが取得できるよう配慮した。
	追加	8. ハイキング章 (9) 日中、夜間においてコンパスを用いずに2種類の方法で方位を発見する。	進級課目から移動した。
	新設	13. 読図章 (1) 16方位と方位角の呼び方を覚え、コンパスで進路を発見する。 (2) 2万5千分の1地形図を用いて次のことをする。 ア) 図上に示された2つの地点の間の方角、直線距離、標高差、道路に沿った歩行距離を読む。 イ) 真北と磁北の違いを説明する。 ウ) 500m（または1km）ごとの方眼を正確に書き入れた地形図により、6桁（または8桁）座標読みを行い、示された地点に到達する。 (3) 三角点、水準点、標高点、等高線とは何かを知り、三角点または水準点の標石を発見する。 (4) コンパスを用い、バックベアリングができる。 (5) クロスベアリングの手法を用い、地形図上で現在地を発見する。 (6) 自分の住んでいる地域にある3つ以上の施設へ地図を使って案内	進級課目から削除した読図に関するスカウト技能について、それを補うために新たに「読図章」を新設した。考査は隊長認定とし、ハイキングなどでプログラム化できる内容のものとした。  隊長認定技能章とすることにより、技能章番号14番以降が一つずつずれていくことになる。

教育規程 番号	変更内容	改正後の課目	変更の理由
		ができる。	

第7章 教育の方法 ベンチャースカウト部門

教育規程 番号	変更内容	改正後の課目	変更の理由
ベンチャースカウトの進級課程 7-29	変更	ベンチャースカウトは、次の区分に従い、それぞれの課目を履修し、所定の考査及び面接を経て進級する。 (1) 入隊したベンチャースカウトの青年の履修課目 ベンチャーの課目 (2) ベンチャー章を取得したベンチャースカウトの青年の履修課目 隼の課目 (3) 隼スカウトの青年の履修課目 富士の課目 ② 各課目と「技能章課目」との関係については、別に定める。	進級の切り離しに伴い変更
ベンチャー章 7-59	追加	入隊したベンチャースカウトは、次の項目を修了した後、所定の手続きを経て、ベンチャー章を着用する。 1 基本 (1) 日常生活において「ちかい」と「おきて」の実践に努め、自身の「日日の善行」について考えを隊集会で発表する 2 スカウト技能 (1) ベンチャースカウト隊の活動に参加し、その結果をふまえ次回集会の企画書を提出する。 (2) 技能章（隊長認定）から「読図章」、「公民章」を取得する。 3 スカウト精神 (1) 『スカウティング・フォア・ボーイズ』のキャンプファイア物語 21、22 および 26 を読み、内容について隊で話し合う。 4 信仰 (1) 信仰奨励章を取得する。	ベンチャー章新設により追加 1 発表の場を設定 2(1) 活動の評価と企画を体験する (2) 菊章取得者は公民章のみ取得。公民章は富士から移動。よき公民になることはスカウト運動の目的であり多くのベンチャースカウトが意識して活動をしてもらうことと隊長認定技能章をベンチャー章で取得しきる面からベンチャー章に移動。 3 隼章から移動、移動理由は2(2)同様。 4 菊章細目と同じ
隼 7-60	変更	1 基本 (1) ベンチャー章取得後、最低4か月間「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくり、隊集会で発表する。	ベンチャー章新設により修正 発表の場を設定
	変更	(1) 自ら課題を設定し、安全、衛生、環境に配慮した、2泊3日以上の移動キャンプを計画、実施、評価をまとめ報告する。	少人数隊へ配慮（2人以上のベンチャースカウトの表記を削除）、距離の長さが課題とならないよう、プロジェクト法の観点から課題を設定し評価することを明記

教育規程 番号	変更内容	改正後の課目	変更の理由
	削除	(2) 次のスカウト技能のいずれかをボーイスカウト隊で指導する。 ①計測 ②通信 ③ロープ結び	自隊での活動で進級できるように削除
	変更	(2) 技能章から「野営章」、「野外炊事章」を取得する。 (3) 考査員認定の技能章から「救急章」を含む3個取得する（BS時に取得した考査員認定の技能章を含む）。	プロジェクトに必要な技能章や興味関心に基づいた技能章を取得するように変更
	追加	3 スカウト精神 (1) 地区や県の仲間や地域の仲間と、自分達の活動や社会における課題をフォーラム形式で話し合い、将来につながる活動を実施する。	フォーラムを通じて隊や日常一緒に活動しているメンバー以外との共同の場を経験する
	変更	4 奉仕 (1) 隊や団、地域社会に貢献することを課題として企画、計画し、実績を隊長に提出する	対象が固定化（他部門奉仕および社会的弱者）されていた従来の細目から、ダイバーシティ&インクルージョンに配慮しスカウト自身が対象を選択しプロジェクト法に基づいて実施するように変更
	変更	5 信仰 (1) 自分が信仰する宗教もしくは自分の心に触れた教宗派の歴史と教えを知る。	「興味を持った」という表現から「心に触れた」とし、信仰の項目に対して求める内容を丁寧に記述した。
	変更	6 成長と貢献 (1) 個人プロジェクトまたは、チームの主要な役割として、プロジェクトを計画、実施し、隊長に報告書を提出し、「隼プロジェクト」として団行事等で発表する。	少人数隊へ配慮（個人プロジェクトも可とする）。プロジェクトを増やしたため、このプロジェクトは自身の「隼プロジェクト」として報告できる水準を求めることで他のプロジェクトとの期待値の差別化を実施。
富士 7-61	変更	1 基本 (1) 隼スカウトとして、最低6か月間「ちかい」と「おきて」の実践に最善をつくり、地域や団行事などで発表する。	隼スカウトとしての経験をふまえ、自身が実践してきた内容を地域または団関係者に対して発表する
	変更	2 スカウト技能 (1) 自ら設定する課題により、2泊3日以上以上の固定または移動キャンプを計画し、実施後、評価を報告書にまとめ隊長へ提出する。	安全確保等の観点から単独キャンプの実施が難しい地域等も存在するため、単独キャンプの表現を削除した
	変更	(2) 考査員認定の技能章から「野営管理章」を含む合計6個以上取得する（BS時に取得した考査員認定の技能章を含む）。	プロジェクトに必要な技能章や興味関心に基づいた技能章を取得するように変更
	変更	3 スカウト精神 (1) 『スカウティング・フォア・ボーイズ』を読み、自身が今後の人生においてどのように社会に対して貢献できるかを隊長と話し合い感想文を提出する。	自分自身のこととして出来る社会貢献や地域貢献を考え発表するように変更

教育規程 番号	変更内容	改正後の課目	変更の理由
	変更	<p>6. 成長と貢献</p> <p>(1) 隼スカウトとして自己の成長と社会に役立つための課題を設定し、個人プロジェクト（研究、製作、実験など）を自ら企画して 複数月の期間で実施し、完結させ隊長に報告書を提出し「富士プロジェクト」として地域や団行事で報告する。</p>	<p>このプロジェクトは自身の「富士プロジェクト」として語ることができる水準を求めることで他のプロジェクトとの期待値の差別化を実施。</p>